

日本におけるフランス語発音教材の鼻母音の扱い

1. フランス語発音教材の現状

2. 分析対象とした教材

- a. 阿南婦美代・Elisabeth GUIMBRETIERE (1995)「コミュニケーションのためのフランス語発音法」駿河台出版社
- b. 菊地歌子(1999)「フランス語発音教本」自費出版
- c. 小島慶一(2002)「CD とイラストで楽しく学ぶやさしいフランス語」語研
- d. 福井芳男・松本悦治(2001)「アテネ・フランセ フランス語の発音」早美出版社
- e. 高橋美佐(2001)「しっかり学ぶフランス語—発音と文法と練習問題」ベレ出版

3. 全体の構成

4. 扱う鼻母音の選択

[ɛ̃]と[œ̃]の扱い

[ɔ̃]と[õ̃]の扱い

5. 発音方法の記述

(教材 a)

●鼻母音とは息を口腔と同時に鼻腔からも抜いて発音する音です。フランス語には4つの鼻母音がありますが、[œ̃]は最近では[ɛ̃]で発音されているので、この課では下の3つの音の発音練習をします。

[ɔ̃] grave/ tendu/ labial

[ɑ̃] grave/ relâché/ labial

[ɛ̃] aigu/ tendu/ non-labial

●[ɔ̃]は[o]のように唇をまるめ口の開き方を狭くして息を鼻にも抜きながら発音する緊張性のある音です。[ɑ̃]は口の開き方を縦に大きく開けるようにして息を鼻にも抜きながら発音します。[ɛ̃]は唇の形も舌の位置も[e]のようにして息を鼻にも抜きながら発音します。[ɔ̃]と[ɑ̃]は口の開き方が大きく違います。

●[ɑ̃]と[ɛ̃]は唇の形が違うことに注意しましょう。

●[ɔ̃]は唇をまるめ口の開き方を狭くして、舌は奥に引いて発音する緊張性のある音です。写真のように腕と手をお腹のあたりに置いて、ボールを抱えているようにして発音してみてください。

●[ɑ̃]は舌は少し奥に入り、少し唇を丸めて前に出し発音します。腕を写真のように胸部の横に折り曲げ、手のひらは軽く前方に向かうようにし、口を大きく縦長に開けるようにして発音してみてください。

●[ɛ̃]は[e]のような口の形で、息を鼻に抜きながら発音します。写真のように肘を水平に持ち上げ、後方に引きながら唇を左右に平たく引く様にして発音してみてください。

(教材 b)

頭全体に音が響くように力を入れて作る → 3つの鼻母音に共通

鼻に呼気の一部を抜いて鼻音性をつける → 3つの鼻母音に共通

[ɛ̃]は[ɛ]と同じように口を開き、唇を横に引く

[õ]は[o]と同じように口を開き、唇を突き出す

[ã]は[a]と同じように口を開き、唇を突き出す

鼻母音で終わる場合は、鏡を見て唇で閉鎖を作らないように注意

(教材 c)

...そして発音の際の注意点は、[n]の音を付加しないことです。音を鼻に抜くだけ、と言えわかりますか。[ɛ]と発音しながら、音が鼻に抜けるようにすればいいだけです。そのとき小鼻を触てみると、響きを感じます。他の鼻母音についても同様です。

(教材 d)

- [ã]は[a]の発音で息を鼻に抜く。
- [õ]はむしろ[o]に近くかなり口を丸く出して発音しながら息を鼻に抜く。
- [ɛ̃]この音は英語の[æ]という音に近い発音をして息を鼻に抜く。[ɛ]の音から出すと南仏の発音になって聞きづらくなります。唇の両端がある程度緊張します。
- [œ̃]は[œ]の発音をしながら息を鼻に抜くわけです。この音はパリでは衰えつつあり[ɛ̃]によってかわられる傾向がありますが、不定冠詞の un は必ず[œ̃]です。
- [ã]は口を開き心持ち唇を前に出して発音しましょう。
- [ɛ̃]はそれに対し唇の両端を少し緊張させ、唇を引いて下さい。
- [ã]は心持ち唇を前に出すようにと言いました。そうすると、ちょっと[õ]に近く聞こえるかもしれません。それでよいのです。[õ]は広い[o]ではなく、むしろ[o]に近く、唇を丸くせばめて鼻から息を抜いて下さい。[õ]と書く傾向があるくらいです。

(教材 e)

- いわゆる「鼻ぬき音」、フランス語独特のあの甘ったるい音です。.....[ã] (アン) — 前述の[a]の音を出しながら、空気を鼻から抜く「アン」という響きになる音です。「ン」のところで口を閉じないで、ボンヤリと開けたまにします。
- [ɛ̃] (アン) — 同じく[ɛ]の音を鼻から抜きます。カタカナでは「アン」と書いていますが、実際は「アン」と「エン」の中間くらいの微妙な音です。
- [õ] (オン) — [o]の音を鼻から抜きます。
- [œ̃] (アン) — [œ]の音を鼻から抜きます。もともとは日本語の「ウ」に近い音ですが、空気を鼻から抜くことで「ア」に近い音になります。現在では前述の[ɛ̃]と同じように発音される傾向があります。
- 鼻母音を上手に発音するコツは、日本語式に「ア・ン」「オ・ン」と2つの音に分けないこと。ひと息でなめらかに「アン」「オン」と出します。鼻母音と呼ばれる以上、母音としていつまでも音が続けられるはずなのです。きっぱりと終わってしまう日本語の「ア・ン」とは違います。

6. 鼻母音単音の録音

7. 鼻母音を含む単語の選択

- フランス語 3 鼻母音 ([ɛ̃]・[õ]・[ɑ̃]) の聞き分けトレーニング (単音、t + 単音、d + 単音) で正答率 90%以上の初級学習者に他の子音環境での般化を調べた実験結果 (竹内 2000)
- 5 発音教材に出現した鼻母音を含む音節を「単語別の回数」、5 教材間の重複も含めた「のべ頻度」を表し、比較。

考察

- 知覚上の困難度は特に考慮されていないようである。
- どちらかといえば初級の教科書で扱われている単語を選択しているようだ。
- 意味や使用頻度によって選択されており、学習困難度によっては選択されていない。

8. 録音教材における鼻母音

- 単音提示の長さ
各鼻母音間に長さの違いはあるか? (先行研究との比較)
教材間の発音スピードの差はあるか?
- 鼻母音の音色
教材間の差があるか?
録音教材の問題点

9. 鼻母音の長さの違い (竹内 2003) と各教材での鼻母音単音の長さとの比較

考察

- 各母音間の長さの決まった関係は見られなかった。
- 数値上は単音の長さがあまり変わらなかったが、教材によっては速度差が感じられる場合もあった。

10. 教材 e のモデル比較

考察

- 鼻母音単音間には、教材間のフランス語母語話者の発音に目立った差は見られなかった。
- 教材 e では、日本語の母音から誘導して鼻母音を出して部分は、明らかにフランス語母語話者のモデル発音と違っていた。

11. 今後の課題

- 日本人学習者のフランス語鼻母音の生成の特徴について調べる
- 知覚、生成両方を考慮した上で、どのような教材が効果的であるかを考える
- 学習者の困難度を考慮した、よりよい発音教材について考える